

令和 8 年度第 1 回契約監視委員会議事概要

開催日時：令和 8 年 7 月 8 日（水）13 時 30 分～14 時 40 分

開催場所：浜松医科大学管理棟 2 階 第二会議室

出席委員：寺田 宏明（監事）、村松 奈緒美（学外有識者）、大井 裕（監査室長）

審議事項

（1）令和 8 年度契約監視委員会委員長の選出について

大井委員より委員長の選出方法について配付資料に基づき説明があった後、委員の互選により、寺田委員を委員長として選出した。

（2）令和 7 年度下半期に締結した契約の審議について

令和 7 年度下半期に締結した契約のうち、審議事項として抽出した契約について、監査室より抽出理由等の説明があった。引き続き、各契約の概要について契約担当課よりそれぞれ説明があった後、質疑応答が行われた。（委員からの意見・質問、それに対する回答等は別紙のとおり。）

審議の結果、全体としては特に問題なく処理されていると判断した。

（3）その他

病院経営戦略課より労働者派遣契約について発言があり、意見交換を行った。

以上

意見・質問等	回答
審議事項（１）電子ジャーナルNature Japan Edition外11点の利用 ・大学図書館コンソーシアム連合の提案により割引価格での購入が可能ということだが、契約内容については交渉の余地はないのか。 ・この契約は転換契約に当たるのか。昨年度転換契約を検討しているが、転換契約を締結した契約はあるか。 ・この契約に関しては転換契約の検討はされたのか。 ・利用実績に基づいてタイトルの入替などはしているのか。 ・金額を理由とした購読の制限や削減をすることはあるのか。	基本的な提案の枠組は示されるが、参加するかどうかは各大学の判断に委ねられる。その上で、個別に契約内容に係る交渉をすることはできるが、実質的に有利な条件を引き出すことが難しいため、基本的には提案に参加するという形となる。 この契約は転換契約ではない。昨年度は検討したうえでメリットがあると判断して数社と転換契約を締結した。 この契約相手との転換契約については検討したが、メリットがないと判断した。 タイトルについては、毎年学内の委員会で検討しており、その際に利用状況を確認している。 電子ジャーナルは年々価格上昇しており、購読停止という選択肢も含めて検討しているが、実際は選定が難しく、利用状況も悪くないため継続している。
審議事項（２）浜松医科大学構内緑地管理業務 ・単年度契約ということだが、複数年契約にして金額を抑えることができるか検討しているのか。	検討はしている。予算上の制約や、近隣住民、教職員及び患者からの要望を踏まえて毎年仕様を見直していることから、現時点では単年度契約としている。

意 見・質 問 等	回 答
・ 契約書に契約保証金は免除するとあるが、免除する基準はあるのか。 ・ 契約相手の業務遂行における信頼性を評価するという考え方は理解できたが、初めて委託する業者や履行できない時に損害が出ると予想される事業については徴収する形になるのか。 ・ このような業務は継続的に契約が確保されるメリットが大きいと思われる。仕様変更について毎年協議することを前提とした複数年契約の締結が可能か検討いただきたい。	本学の規程では、契約保証金は原則として徴収することとしているが、免除規定も設けられている。そのうち、競争参加資格を有する者については免除できるという規定があり、今回はその規定に基づき、競争参加資格を有し、ある程度責任を持って業務を行うことが担保されている業者ということで免除としている。 そのとおりである。 今後検討していく。
審議事項（３）浜松医科大学附属図書館時間外業務 ・ 契約の相手方は前年度と同じ業者なのか。 ・ 場所によっては学生アルバイトやボランティアが担っている事例があると聞くが、他大学でもこうした業務については業務委託という形なのか。	前年度と同じである。 業務委託の方が多い。欠勤等が発生した場合の対応体制が業務委託の方がしっかりしているのが理由である。
審議事項（４）産学官連携支援及び知財活用推進業務 ・ 昨年度の委員会時の意見を踏まえ、履行状況の確認や契約金額の検討はしたのか。	毎月提出される報告書により確認している。また、決算状況についても確認しており、経営状況は改善傾向にあることから、適切

意 見・質 問 等	回 答
・ 会社の収支はどのような状況か。 ・ 会社の人件費は全てこの業務委託契約の委託費で賄われているのか。 ・ 今後も委託費と業務の履行状況等を継続して確認していただきたい。 審議事項（５）遠隔医療システム 一式 ・ 新規購入とあるが、購入実績はあるのか。それとも、初めて導入する物品なのか。 ・ 連携機関への設置とあるが、事業の一環として、物品購入に係る費用は全て本学が負担しているのか。 ・ 応札者は1社のみだが、同等品等は存在するのか。	に業務が実施されているものと認識している。 収支の状況としては、まだ黒字には達していない状態だが、だいぶ黒字に近づいている状況である。今年度あたりには黒字になると予想しており、そのような見込みを立てている。 本学が委託している部分については対価なく働いてもらうことはできないので、それは会社の売上として計上しているが、業務委託契約以外にも収入を得ることは模索している。委託費だけがこの会社の収入源というわけではない。 分かりました。 初めて導入する物品である。 補助金での事業であり、本学が補助金を獲得したので、本学が費用負担し、連携機関に設置し使用する形とした。 同等品は存在しているが、日本への導入事例が極めて少ない。ディーラー間で競争が働くかもしれないので一般競争入札としている。

意 見・質 問 等	回 答
・ 本学以外の連携機関へ納品する際の検品等はどのように実施したのか。 ・ 連携機関に対して物品の管理等について取り決め等はあるのか。 ・ 5年間無償貸与としているが、保守点検は3年間で契約を締結している。保守点検も5年間という選択肢はなかったのか。 審議事項（6）浜松医科大学医学部附属病院患者給食提供補助業務一式 ・ 応札者は1社のみだが、他の業者の入札参加は難しかったのか。 ・ 入札の結果、不落となったため随意契約を締結しているとのことだが、最終的な契約金額は入札時の金額と比べてかなり低くなっている。これは仕様等を変えたということか。 ・ 2年間の複数年契約を締結しているが、近年は物価や人件費の上昇があり、複数年契約の締結が難しいと認識している。この契約について、複数年契約の締結が可能になった理由は何か。	連携機関への直送を希望する内容の依頼書が担当部署から提出されたため、本学規程に基づき連携機関へ学外納品に係る検査員の委任手続きを行い、任命した者に検品をしていただいた。 5年間は無償貸与、その後は無償譲渡という形で取り決めている。 財源上の都合もあり、3年間の保守契約とした。 公告期間中に過去に業務委託していた業者に対して業務の履行可能性や入札参加意向等について情報収集を行ったが、入札参加は難しいとの回答があり、結果的に応札者が1社のみとなった。 仕様等の契約条件は変えていない。 業者へ聞き取りを行ったところ、業務従事者の育成に期間を要するため、単年度契約では人材確保及び育成が難しいとの回答があったことから、業務の継続性等を踏まえて、複数年契約が可能になったと認識している。